

コラム 「鋼床版き裂の非破壊調査技術」の普及活動

鋼床版き裂の非破壊調査技術は、鋼床版のデッキプレートを貫通する目視困難な疲労き裂を高い精度で効率的に検出できる非破壊の調査技術で、民間提案型共同研究にて開発されたものです。22年度に「鋼床版き裂の超音波探傷法」を重点普及技術として選定し、25年度には「Uリブ内滞水調査技術」も含めて一体として普及を進めています。

25年度は、知的財産権活用促進事業によりデモンストレーション用の装置を製作し、国土交通省関東地方整備局関東技術事務所内の建設技術展示館に常設展示（写真-1）を行うとともに、本装置を活用し、実橋において鋼床版Uリブ内の滞水を確認する試行調査（写真-2）を3橋で実施しています。試行調査では、3橋のうち1橋において複数の箇所の貫通き裂の早期発見に至り、現場での迅速な補修対応に貢献することができました。

また、東京で開催した土研新技術ショーケースにおいて紹介するとともに、ものづくりNEXT2013 非破壊評価総合展に出展しデモンストレーションを行うなど、積極的な普及活動を展開しました。今後、さらなる現場での活用が期待されます。

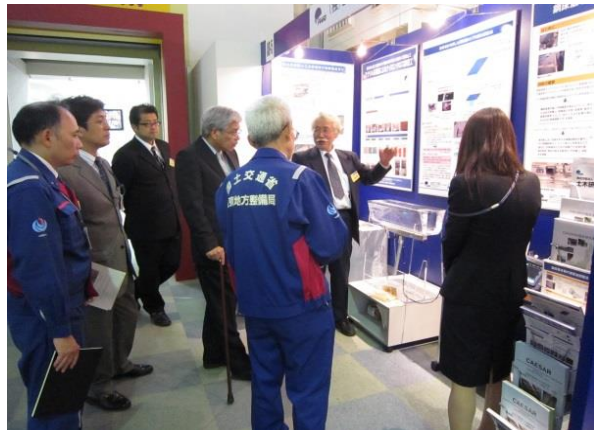


写真-1 建設技術展示館での常設展示
(関東技術事務所)



写真-2 実橋での試行調査